

Ⅱ 一 iii 作業療法学分野

生活行為作業療法学特論	1
発達過程作業療法学特論	3
作業療法学特別研究Ⅰ	5
作業療法学特別研究Ⅱ	7
作業療法学特別研究Ⅲ	9

授業科目	生活行為作業療法学特論		科目英語表記	Advanced OT for Activities of daily living		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 菊池 昭夫 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 千葉 登					
科目責任者氏名	佐藤 寿晃					
学内連絡教員氏名						
分野	作業療法学分野	学年	博士後期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位	
授業概要	ADL、IADL、仕事や趣味、余暇活動などの生活行為に関わる障がいについて作業活動学、高次脳機能障がい、内部障がい、運動器障がい、老年期障がいの各視点から概説する。また最近の生活行為障がいをめぐる話題を取り上げ、その批判的吟味を通して課題を検証し、解説を行うとともに、生活行為障がいを予防し、あるいはその維持・強化を図るために必要な基礎知識、評価手法、実践方法、研究方法について、作業療法学の視点から教授する。講義で学んだ各理論や方策を教員と学生で討議し、生活行為に関わる法則性を見出し、一般化、体系化を試みる。					
到達目標	講義で学んだ各分野における 1. 生活障がいの評価手法、実践手法、研究手法を関係づけることができる。 2. 生活障がいを予防あるいは維持・強化をするための研究開発の方策を具体的に述べるができる。					
成績評価方法	プレゼンテーション 60%、議論（授業への参加度） 40%					
成績評価基準	プレゼンテーション 60% 到達目標 1, 2 優れている：適切かつ明確にプレゼンテーションできる。 良好である：一部不適切、不明確な部分はあるがある程度、プレゼンテーションできる。 最低限の到達：ある程度の助言があれば、プレゼンテーションできる。 目標に到達していない：プレゼンテーションできない。 議論（授業への参加度） 40% 到達目標 1, 2 優れている：積極的に授業へ参加し議論の深化に十分貢献できる。 良好である：積極的に授業へ参加し議論の深化に概ね貢献できる。 最低限の到達：積極的に授業へ参加し議論の深化に一部貢献できる。 目標に到達していない：議論の深化に貢献できない。					
授業形式	対面または遠隔授業					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	個体、作業課題、環境と生活行為障がいⅠ	個体、作業課題、環境と生活行為障がいについての知見を講義する。	講義、演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川	
2	個体、作業課題、環境と生活行為障がいⅡ	個体、作業課題、環境と生活行為障がいについての知見に関して討議する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川	
3	高次脳機能障がいと生活行為障がいⅠ	高次脳機能障がいと生活行為障がいについての知見を講義する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川	
4	高次脳機能障がいと生活行為障がいⅡ	高次脳機能障がいと生活行為障がいについての知見に関して討議する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川	
5	運動器障がいと生活行為障がいⅠ	運動器障がいと生活行為障がいについての知見を講義する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川	
6	運動器障がいと生活行為障がいⅡ	運動器障がいと生活行為障がいについて知見に関して討議する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川	

7	高齢期と生活行為障がいⅠ	高齢期と生活行為障がいについての知見を講義する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川
8	高齢期と生活行為障がいⅡ	高齢期と生活行為障がいについての知見に関して討議する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川
9	身体障がいと生活行為障がいⅠ	身体障がいと生活行為障がいについての知見を講義する	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川
10	身体障がいと生活行為障がいⅡ	身体障がいと生活行為障がいについての知見に関して討議する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川
11	生活行為障がいの研究と応用Ⅰ	生活行為障がいの研究と応用についての講義する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川
12	生活行為障がいの研究と応用Ⅱ	生活行為障がいの研究と応用についての講義する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川
13	生活行為障がいの研究と応用Ⅲ	それぞれの研究テーマを基して、生活行為障がいについて討議する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川
14	生活行為障がいの研究と応用Ⅳ	それぞれの研究テーマを基して、生活行為障がいについて討議する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川
15	生活行為障がいの研究と応用Ⅴ	それぞれの研究テーマを基して、生活行為障がいについて討議する。	講義・演習	講義終了後に復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川

日付

毎週月曜日 6-7 限目

教科書	随時紹介する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp 藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 仁藤：研究室26 mnito@yachts.ac.jp 外川：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp 千葉：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	発達過程作業療法学特論	科目英語表記	Advanced OT for developmental process		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 佐竹 真次				
科目責任者氏名	佐竹 真次				
学内連絡教員氏名	佐藤 寿晃				
分野	作業療法学分野	学年	博士後期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	発達過程作業療法学に関する科学的研究を展開するための研究課題発見と研究計画作成、および研究技術・方法の活用について学ぶ。また、発達過程作業療法学における生活障がいの評価手法、実践手法、研究手法を人間発達学、家族関係論、小児科学を基盤におき、作業療法学の視点から教授する。学校教育を含む地域連携、在宅医療の観点からの支援方略を教員と学生で討議する。				
到達目標	1.行動分析学、コンピュータ・タスク・デバイス、視線追尾デバイス、自律神経指標等を活用した研究課題設定と研究計画作成について説明することができ、新たなアイデアも述べるができる。 2.発達過程作業療法学における生活障がいの評価手法、実践手法、研究手法を理解し、学校教育を含む地域連携、在宅医療の観点から支援方略を具体的に述べるができる。				
成績評価方法	目標達成度（40%）、受講態度（30%）、討議への寄与（30%）をレポートで評価する。				
成績評価基準	判定	評価	点数	基準	GP
	合格	A	100~90	到達目標を達成し、特に優れた成績を収めている	4
		B	89~80	到達目標を達成し、優れた成績を収めている	3
		C	79~70	到達目標を達成し、良好な成績を収めている	2
		D	69~60	到達目標を最低限達成している	1
	不合格	F	59~0	到達目標を達成していない	0
授業形式	対面授業とリモート授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	行動分析的な研究課題設定と研究計画作成Ⅰ	行動分析的な研究課題設定と研究計画作成について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
2	行動分析的な研究課題設定と研究計画作成Ⅱ	行動分析的な研究課題設定と研究計画作成について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
3	コンピュータによるタスク・デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成Ⅰ	コンピュータによるタスク・デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
4	コンピュータによるタスク・デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成Ⅱ	コンピュータによるタスク・デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
5	視線追尾デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成Ⅰ	視線追尾デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
6	視線追尾デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成Ⅱ	視線追尾デバイスを用いた研究課題設定と研究計画作成について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
7	自律神経指標を用いた研究課題設定と研究計画作成Ⅰ	自律神経指標を用いた研究課題設定と研究計画作成について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
8	自律神経指標を用いた研究課題設定と研究計画作成Ⅱ	自律神経指標を用いた研究課題設定と研究計画作成について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹

9	発達過程作業療法における生活障がい支援Ⅰ (ASD, LD, ADHD など)	発達過程作業療法における生活障がい支援について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
10	発達過程作業療法における生活障がい支援Ⅱ (ASD, LD, ADHD など)	発達過程作業療法における生活障がい支援について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
11	発達過程作業療法における生活障がい支援Ⅲ (脳性麻痺、重症心身障がい児など)	発達過程作業療法における生活障がい支援について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
12	発達過程作業療法における生活障がい支援Ⅳ (脳性麻痺、重症心身障がい児など)	発達過程作業療法における生活障がい支援について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
13	発達過程作業療法における学校支援・家族支援の在り方Ⅰ	発達過程作業療法における学校支援・家族支援の在り方について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
14	発達過程作業療法における学校支援・家族支援の在り方Ⅱ	発達過程作業療法における学校支援・家族支援の在り方について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹
15	発達過程作業療法における在宅支援・連携・ネットワークの在り方	発達過程作業療法における在宅支援・連携・ネットワークの在り方について実践的な検討を行う。	講義と討議	文献を紹介するので事前学習をしておくこと	佐竹

日付

集中講義（後日連絡）

教科書	随時紹介する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐竹 真次 : satake550918@gmail.com
備考	

授業科目	作業療法学特別研究Ⅰ		科目英語表記	OT for Special Research Ⅰ		
職名、担当教員氏名	教授 藤井 浩美 教授 佐藤 寿晃 教授 菊池 昭夫 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 千葉 登					
科目責任者氏名	佐藤 寿晃					
学内連絡教員氏名						
分野	作業療学分野	学年	博士後期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択（選択必修）			
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位	
授業概要	作業療学分野の研究指導教員が、生活行為作業療法学又は発達過程作業療法学の視点で研究課題、研究計画に関する指導と支援をする。具体的には、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して指導に当たる。					
到達目標	1.出願時の研究テーマ（仮）に関する文献を、幅広くかつ深く収集できる。 2.収集した文献を、生活行為作業療法学又は発達過程作業療法学の視点を踏まえて批判的に検討できる。 3.上記の過程を通して、博士論文における研究課題を明確化できる。 4.博士論文における研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況を具体的に説明できる。 5.博士論文における研究課題の研究目的と意義を具体的に説明できる。 6.研究課題を解明するための適切な研究計画を検討し、立案できる。 7.自己の研究課題、研究計画を発表できる。					
成績評価方法	授業への参加状況（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。					
成績評価基準	到達目標1～7に対して特に優れている； 到達目標を大きく超えて優秀である。 優れている； 到達目標を超えて優秀である。 良好である； 望ましい到達目標に達している 最低限の到達； 最低限の到達目標には達している 目標に到達していない； 到達目標を下回る					
授業形式	対面または遠隔授業					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	オリエンテーション 研究ゼミナール 研究課題、研究計画の明確化 研究ゼミナール まとめ	出願時の研究テーマ（仮）の発表・討議 発表・討議に向けた、文献収集、文献の批判的検討、研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画に関するゼミナール活動 研究課題の研究動機、研究背景、先行研究の状況、研究目的と意義、研究計画 発表と討議 発表・討議に向けた、研究計画立案のゼミナール活動 研究課題、研究計画 発表と討議	対面または遠隔授業	課題準備および復習してください。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川

教科書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1／博士後期2／博士後期3

実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp 藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 仁藤：研究室26 mnito@yachts.ac.jp 外川：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp 千葉：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	作業療法学特別研究Ⅱ		科目英語表記	OT for Special Research II		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 菊池 昭夫 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 千葉 登					
科目責任者氏名	佐藤 寿晃					
学内連絡教員氏名						
分野	作業療法学分野	学年	博士後期2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択（選択必修）			
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	4単位	
授業概要	作業療法学特別研究Ⅰでまとめた研究課題、研究計画を基に実施した予備研究や本研究のデータに関するまとめと解釈に、主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームで当たる。					
到達目標	1.研究課題、研究計画に関する倫理的配慮を検討できる。 2.検討した倫理的配慮を倫理委員会の審査書類に記述できる。 3.倫理委員会で研究の概要と倫理的配慮を的確に述べることができる。 4.研究計画に沿ってデータを収集できる。 5.収集したデータを分析し、必要に応じてデータの追加収集を行うことができる。 6.データのまとめと解釈を行うことができる。 7.特別研究Ⅰの研究計画及び特別研究Ⅱのデータのまとめと解釈について発表できる。					
成績評価方法	授業への参加状況（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。					
成績評価基準	到達目標1～7に対して特に優れている； 到達目標を大きく超えて優秀である。 優れている； 到達目標を超えて優秀である。 良好である； 望ましい到達目標に達している 最低限の到達； 最低限の到達目標には達している 目標に到達していない； 到達目標を下回る					
授業形式	対面または遠隔講義					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	予備研究と本研究 研究テーマの設定 研究背景と目的 妥当な研究方法の 選択 適切なデータ解析 方法 倫理審査の受審 研究の実施 対象者の選択と協 力要請 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的に対応した考 察	院生が選択した研究内容に 応じて、教員が研究指導チ ムを編成して、資料の収集方 法や研究実施方法、解析方 法、結果の解釈などを定期的 に指導する。 その指導の下、毎月の作業 療法学分野会において、経過 を発表し、データの解釈と統 合を図る。	対面と遠隔授業	自身の研究課題に関する国内 外の研究報告などの情報収集 に努め、絶えず情報を更新 し、主研究指導教員と副研究 指導教員の指示に沿って、積 極的に研究を実行する。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千 葉、外川

教科書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
参考書	特になし
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1／博士後期2／博士後期3

実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp 藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 仁藤：研究室26 mnito@yachts.ac.jp 外川：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp 千葉：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	作業療法学特別研究Ⅲ		科目英語表記	OT for Special Research III		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 菊池 昭夫 教授 藤井 浩美 教授 仁藤 充洋 教授 外川 佑 准教授 千葉 登 非常勤講師 平山 和美					
科目責任者氏名	佐藤 寿晃					
学内連絡教員氏名						
分野	作業療法学分野	学年	博士後期2年／博士後期3年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択（選択必修）			
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	4単位	
授業概要	作業療法学特別研究Ⅰ・Ⅱを通じてまとめた研究成果を主研究指導教員と副研究指導教員に加えて、院生の研究課題、研究計画に沿って、関係教員が加わりチームを構成して博士論文として作成するための指導に当たる。					
到達目標	1.作業療法学特別研究Ⅰ・Ⅱを通じてまとめた研究成果を博士論文として作成する上での、自己の課題と解決方法について意見交換できる。 2.博士論文の内容の一部を学術論文として作成し、学術雑誌の採択を受けられる。 3.博士論文の構成を検討できる。 4.博士論文として、新規性、有効性、信頼性のある論文を作成できる。 5.論文審査において、審査委員からの指摘に的確に対応できる。 6.論文発表会において研究成果を発表できる。					
成績評価方法	授業への参加状況（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。					
成績評価基準	到達目標1～6に対して 特に優れている； 到達目標を大きく超えて優秀である。 優れている； 到達目標を超えて優秀である。 良好である； 望ましい到達目標に達している 最低限の到達； 最低限の到達目標には達している 目標に到達していない； 到達目標を下回る					
授業形式	対面または遠隔授業					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	研究の実施 対象者の選択と協力要請 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的に対応した考察 研究のまとめ 博士論文の作成 博士論文発表の準備 論文発表会	院生が選択した研究内容に応じて、教員が研究指導チームを編成して、論文構成、問題設定、研究方法、結果、考察、結論、文献および口頭試問に備えた対応、学術誌への投稿などを定期的に指導する。 その指導の下、毎月の作業療法学分野会において、経過を発表し、論文作成を促進する。	対面または遠隔授業	自身の研究課題に関する国内外の研究報告などの情報収集に努め、絶えず情報を更新し、主研究指導教員と副研究指導教員の指示に沿って、積極的に研究を実行する。	藤井、佐藤、菊池、仁藤、千葉、外川、平山

教科書	特に指定しないが、授業に必要な資料や参考書は、適宜、配布、または指示する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1／博士後期2／博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内	

容	
教員の連絡先	佐藤：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 菊池：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp 藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp 仁藤：研究室26 mnito@yachts.ac.jp 外川：研究室28 tsotokawa@yachts.ac.jp 千葉：研究室22 nchiba@yachts.ac.jp
備考	